

被災者トークリレー ～発生直後から避難場所～

災害が発生したら、どのようなことが起こるのでしょうか。この記事の前半は、本誌の渡邊エディタより平成28年熊本地震(2016)で被災された方の聞き取りをもとに報告していただきました。後半部分は、平成29年7月九州北部豪雨(2017)で自宅が被災されたA市お住まいの福岡大学勤務の古賀氏から寄稿いただきました。

平成28年熊本地震

創作中学校 教諭 わたなべ けいこ
渡邊 啓子

実家のある熊本でこのような大きな地震が起きるなんて、考えたこともありませんでした。発災後に熊本から離れて暮らす友人と連絡を取り、家族や共通の友人の状況を報告しあいましたが、自分たちだけ日常生活を送っていることに罪悪感がありました。物資を送る他に自分にできることは何かを考えたときに、あまり多くを語らない被災された方の話を聞くことだと思い、

この記事執筆することになりました。

片づける前に写真記録を残しておく (写真1、2)

—まずは実家の家族に聞いてみました。

自宅の壁にヒビが入り、屋根瓦も落ちるなどの被害で半壊認定を受けましたが、修理して住み続けることができました。益城町の親戚宅は断層付近にあり、2階建ての1階部分が潰れてしまいました。なお、り災証明書を取るために、片づける前に写真を撮っておくことが大切です。

家具や食器棚の扉の固定が 大切ですが・・・

1度目の地震は、夕食後にテレビを見ながらうたた寝をしていたときに起きました。ほとんどの家が夕食の片づけを終えた時間帯で、火事にならなかったことは不幸中の幸いだったと思います。家の中では、開き戸タイプの棚から食器が飛び出して割れてしまいました。高かった食器ばかり



写真1 自宅の中の置物が散乱。階段脇に備えていたコンテナ内の飲料水が役に立ちました



写真2 自宅前の歩道に設置されていた丸いコンクリートが転がってしまっていた



写真3 災害は忘れた頃にやってくる。東日本大震災の約10年後に起きた大きな余震で食器が散乱した福島県郡山市の親戚宅

り割れて、100円ショップで買った安い食器は割れなかったことが印象的です(笑)。その後、(筆者が送った)開き戸を止める防災グッズを貼っていたのですが、毎回の開け閉めが面倒なことと、経年劣化で両面テープがはがれてしまい、結局そのままにして使っていません(苦笑)。「災害は忘れた頃にやってくる」(写真3)とは思いますが、面倒だなどという気持ちが強く、対策をしていないのが現状です。

2度目の地震のときには、寝ていた母の横にタンスが正面から飛んできて倒れ、ゾッとしました。トイレではタンクの蓋が割れました。生活面では電気と水道は止まりましたが、プロパンガスだったので、飲用水をもらってきて自宅で過ごしました(注:都市ガスを使用している友人は復旧まで1週間程かかったとのこと)。最初は井戸があるお宅から水を分けてもらっていましたが、しばらくすると水が濁ってしま

い使えなくなりました。野菜販売をしている職場の取引先の方が水をタンクに汲んで遠方から車で何往復もして届けてくださり大変に感謝しています。

余震が頻繁に続いていた時期には、家具の下敷きや家の倒壊が心配だったため、寝るときだけ自宅の庭に停めた車中で過ごしました。屋根瓦に被害を受けた住宅が多く、屋根に被せるブルーシート(写真4)がホームセンターで売り切れました。知り合いが福岡県の店舗で購入してくれましたが、ブルーシート以外にも飲料水やおむつなどを熊本近県で購入して届ける方が多く、売り切れになり、逆にその地域の方が困ることもあったようです。

地震で落ちた瓦で車が傷つきましたが、一般的な任意の自動車保険に加入していてもこの場合は補償対象にならないそうです。墓石も倒れてしまい、知り合いの方をお願いして一緒に修理しましたが、住宅とは違い補助金はあ



写真4 屋根瓦の修理までブルーシートで対応

りませんでした（注：集落共有の墓地に対しては補助金があった）。

熊本地震では2階建てよりも平屋のほうが、地震被害が少なかったことから、住宅再建時には平屋で建てる方が多かったようです。

他の困りごととしては、自宅の裏がごみ集積所になっていますが、1週間程度は収集車が回収に来ることができずにそのままになっていました。粗大ごみも無料で回収してもらえたため、中には便乗ごみもあったようです。

一週間程度は停電が続き、 買い物も現金で

食品小売店に勤務する妹の職場で大変だったことは、停電になり冷蔵・冷凍庫が使えなかったため要冷蔵のものを保冷箱に入れて対応したこと、レジが使用できず全て手打ちで計算して販売したことだそうです。停電ではクレジットカードを含む電子決済もちろん使えないので現金での販売になります。もし同様のことが、キャッシュレス決済が進んでいる地域で起きた場合は大変だと思います。その場合に備えて、現金を用意しておくことが大切です。

一次に友人の体験を伺いました。

ペットとの避難が難しい

— Cさんは益城町の被害が大きかった地域から少し離れた場所にご両親と暮らしていますが、避難所へは行きましたか？

家族で近所の公民館へ数日間避難し

ました。犬を飼っていますが、避難所や親戚宅、仮住まいのアパートへ連れて行くことはできなかったのも、被災した実家につなぎ、餌や水やりなどの世話に通いました。公民館でも水道が止まっていたので、近くの川で水をくみ、トイレを流す水として使用しました（注：下水道が破損している場合には水を流さないようにして下さい。アパートやマンションなどの集合住宅では下の階に漏れてしまうこともありトラブルのもとになりかねないそうです）。自然が多い地域なので、時には外で用を足すこともしました。お風呂は友人宅にお願いして数日に1回、入らせてもらいました。春先で、まだあまり汗をかかない時期だったのでまだマシでしたが、被災時期によっては本当に大変だと思います。また、地域によって被害の程度の差が大きかったことも熊本地震の特徴だと感じます。両親が多くのひととの共同生活が難しかったため、避難所や親戚宅にずっとお世話になるわけにもいかず、アパートに2回移り住みました。2回目では犬も一緒に住めるアパートが見つかりましたが、それまでは仕事を終えた後に片道30分程度の距離を運転して、犬の世話に通い続けました。避難先の地域は地震被害がほぼなく、通常の生活をしている方が多かったのも、なぜ自分たちだけがこのような目に合わなければならないのかと、とてもみじめな思いになりました。これは被害に遭った方にしかわからない気持ちだと思います。実家を解体後、再度同じ場所に家を建てましたが、

高齢の両親に代わって自分の名義で住宅ローンを組みました。私は派遣社員として働いているので住宅手当もなく、なぜ独身の自分が住宅ローンを組まなければならないのだろうか、とも思っています。

お薬手帳もお忘れなく

— Hさんは、熊本市近郊の病院の薬剤師として勤務され、被災も災害派遣も経験されました。薬剤師という視点からのアドバイスがあればお願いします。

薬剤師としては、災害時には緊急用の薬剤も大事なのですが、高血圧や糖尿病などでいつも飲んでいるお薬を避難時に持って行くことができなくて困る、というパターンが多いと思います。お薬手帳があれば何とかできるので必ず持って避難して欲しいです。また、個人的には災害で起こる薬剤による環境への影響が気になります。例えば水害で薬剤が破損して抗菌薬や抗がん剤などが土壌に流れた場合、その部分の環境が変わりますし、それこそ、工場などが被害に遭えば土壌汚染に繋がりますので、これらの対策も必要だと感じます。

エコノミークラス症候群にもご注意ください

— Sさんは、お子さんも小さい中で色々大変だったと思います。

地震でテレビや額縁が倒れて割れました。それ以降はガラスではなくアクリル製の額を使用する、身長よりも高い家具は置かないようにしています。避難所に行きましたが、大勢の方が集

まって来られておりスペースがなかったことと、娘がまだ幼く、ハイハイで動く時期だったので、避難所でも親戚宅でも気を遣うことから車中泊をして過ごしました。血栓ができる、いわゆるエコノミークラス症候群が怖かったので弾性ストッキングを履いて過ごしました。今でも車の中には必要最低限の荷物と毛布と弾性ストッキングを積んでいます。

— Mさんは益城町の中でも被害が大きい地域にお住まいで、日常が突然なくなってしまったことはかなりきつかったと思います。ご自宅が住めなくなり、使えなくなってしまった家財道具はどうされましたか？

地震直後は、とても家の片づけをするような心理状態ではありませんでした。ボランティアの方が10名程、家財道具を運び出し、災害ごみを運び出すお手伝いをしに来てくれました。災害ごみは近くの小学校に仮置場が設置されました。親戚宅での避難生活を経て、みなし仮設住宅のアパートに引っ越ししました。復興のお手伝いがしたいと考え、転職して公務員になりました。

— 時間が経って記憶が薄れている部分や、まだ思い出したくないこともある中で、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

読者の皆様には、これらの経験を今後の災害対策に活かしていただけたいと思います。